

## 第23回 PERIO PBL カンファレンス

2016年10月26日（水）17：30～18：30

第23回 PERIO PBL カンファレンスが開催されました。テーマは管理栄養士より①「食道がん手術後に顕著な体重減少をきたした症例」、薬剤師より②「入院時に術前休薬が必要な薬剤が判明した事例」でした。

①では食道がんでESD後に、追加切除手術が必要となり当院に紹介され、術後に体重減少をきたした事例が紹介されました。看護師より、最初の看護面談時にストレス度が高く、不安定な気持ちを言われているので、このような精神状態の方だからこそ術後に何かしらのことがあると食べられなくなるということを学んだと意見がありました。また、追加切除術を受

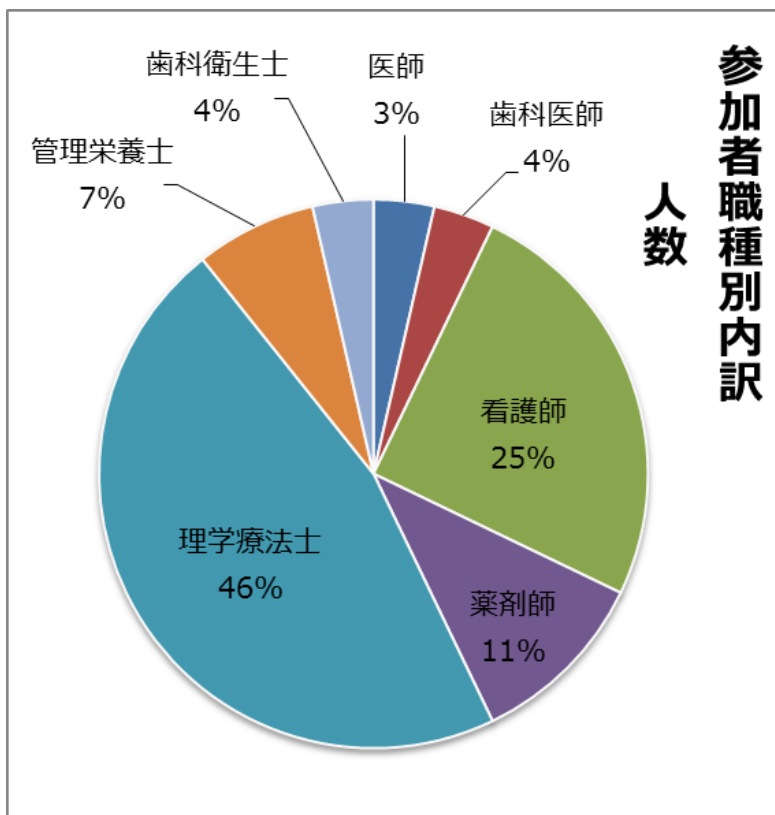


けた患者が病理結果を聞いて、どう受け止めたかというのは重要なことで、確認する必要があったのではと意見がありました。さらに、術後化学療法中の口腔内乾燥に対して歯科衛生士より、術前の化学療法では歯科衛生士が介入を行っているが、術後の化学療法患者は把握出来ておらず、介入が出来ていない。この患者の場合も歯科介入が出来ていれば、もう少し変わっていたのではないかと意見がありました。最後に、管理栄養士より、現在は退院後のチーム介入はシステム化が出来ていないため、今後このような患者が出て来た場合、どのようなフォロー体制が必要であるかを考えていきたいと述べられました。



②では入院時に術前休薬が必要な薬剤が休薬されていないことが判明した事例が紹介されました。看護師より、該当診療科の外来では、術前中止薬に対しては厳重に対応されていて患者にも確認し、調剤薬局での処方もわざわざヒート処方にして一包化からもはずされていたのに気づけなかったことが惜しいと述べられました。これがきっかけではないが、当日予約の麻酔科受

診患者も PERIO 薬剤師の面談が受けられるようになったので、今後は改善されるのではないかとの意見がありました。薬剤師からは、調剤薬局薬剤師は中止薬について気づいていた可能性があるが、休薬期間や手術日などの情報は伝わっていないため、そこで患者指導することは難しい。今後は、調剤薬局との連携も必要であると述べられました。さらに、ジェネリック薬剤や配合薬剤の普及により、ますます中止薬の確認が困難となる可能性が高いため、医療スタッフへの周知はもとより、薬剤師が中心となり、薬物治療の全体像を把握する必要があると述べられました。



職種	人数
医師	1
歯科医師	1
看護師	7
薬剤師	3
理学療法士	13
管理栄養士	2
歯科衛生士	1
計	28